



復刊第95号  
題字吉岡弥生

第二十八回定時総会特集

昭和58年5月28日 / 岡山プラザホテルにて

会長挨拶

会長 三神 美和

会員の皆様!! 本日はようこそご出席下さいました。年一回こうして総会の席で、皆様とお目にかかることを、私は無上の楽しみとしております。本日は多数の方がたが全国からお集まり下さいましてありがとうございます。これというのも、本総会開催に当たり、途中で前支部長井口与志子先生のご急逝にもかかわらず、数々のご配慮、ご準備をしていただきました岡山支部の皆様、杉先生、両小川先生をはじめ支部全会員の並々ならぬご奉仕の賜であると存じまして、高い壇上から、心から厚くお礼申し上げます。

度事業計画、および予算の審議、採決であります。各担当部門より提出しますこれらの案件について、何卒よろしくお願い申し上げます。さて昨年は役員選挙によって、役員の新旧交代があり、若い役員が多数選出され、本会に新風を導入しました。もう一年を経過しましたので、会議にも慣れ、理事一同仲よく仕事をしております。昨年とは別に目新しいこともありませんでしたが、従来の事業がしだいに充実した年であったと思えます。総会に先立ちお送りした会務報告、および第九十四号「日本女医学会誌」にお目通しいただければ、五十七年度の本会の活動状況がおわかりのことと存じますが、

この中でとくに私が感じた点について、申し述べたいと存じます。

渉外面においては、国内的には、柳瀬先生が代表となつて、NGOやその他婦人団体との交流を深め、とくに優生保護法阻止連絡協議会にはたびたび出席され、その立場上、代表の一人として国会にまで出かけられるなど活躍されました。国外においては、国際女医学会がマニラで開かれ、三十九名が出席され、演題も出されました。また元国際女医学会会長であり、フィリッピン女医学会の大御所であるデル・モンド女史が、貧しい人たちのためにつくられた小児病院が開設三十周年を迎えられるというので、日本女医学会から、若干の寄付をしてその功績を称えましたところ、たいへん感謝されました。個人的になりますが、副会長山崎崎子先生が、第二十七回国連総会へ、日本政府代表代理(五人)の一人として、ただ一人の女性代表として選ばれ、三カ月に及ぶ長い間活躍され、立派に成果をあげられたことは、日本女医学会にとつて特筆すべきことであり、誇らしいことであります。日本女医学会は、日本の女医の力を結集した日本女医の代表団体でありますので、その活動は同窓会と違ってスケールの大きいものとなります。立派な力のある方がたが集まっておりますので、その方がたの力を内外に向かつて發揮していただくことが、日本の女医の向上に役立つものであります。そこに一つの日本女医学会の存在

もくじ

第二十八回定時総会特集

会長挨拶……………三神 美和 (1)

定時評議員会議事録…………… (2)

定時総会議事録…………… (3)

総会を終えて(岡山支部)

総会後記……………津田 久子 (4)

講演会……………小川 富美 (4)

懇親会……………石井 雅枝 (5)

懇親会……………山名 智子 (5)

観光/Aコース 倉敷・瀬戸の旅より……………小川 富美 (6)

観光/Bコース 備前の里を訪ねて……………大本佐和子 (7)

宿泊係を担当して……………坂本 広猪 (8)

僻地診療に対する表彰を受けて……………福永ひろ子 (8)

吉岡弥生賞を受賞して……………申田つゆ香 (9)

吉岡弥生賞を受賞して……………杉山太規子 (9)

岡山にロマンを追って―総会に参加して……………清水五百子 (10)

岡山支部での日本女医学会総会……………中濱 昌子 (10)

翌日の観光旅行に参加して……………山崎 倫子 (11)

Circular Letter No. 73…………… (11)

支部近況……………加藤 竺子 (11)

コミュニケーションを大切に(福岡支部)……………宮本 みち (12)

千葉支部現況(千葉支部)……………佐藤 里子 (13)

忙中閑/佐藤博物館…………… (13)

学術研究助成のご案内…………… (9)

吉岡弥生賞候補者推せんについて…………… (9)

会員の消息…………… (12)

理事会議事録…………… (13)

会員動静…………… (14)

編集後記…………… (14)

理由があると思えます。昨年はその意味において、本会の力を大いに發揮した年であったと思えます。学術面においても、吉岡弥生賞に三名の該当者がありました。社会に貢献された方として、副会長福永ひろ子先生が推薦されました。福永先生は、戦争末期に当時無医地区であった箱根に赴任されて以来今日に至るまで、一貫して地域医療に貢献さ

れ、のみならず、教育面に、また保健衛生面にも多大の貢献をされました。幾多の表彰をうけております。日本女医学会にも理事として長い間ご尽力下され、現在副会長として重責を荷なっておられ、本当に得難い人物と思ひます。吉岡弥生賞はもつと早くさし上げるべき方でありましたのに、「燈台下暗し」の感があります。学術面のお二人も、共に優れた研究者として国内・国外で活躍しておられる立派な方であります。杉山太規子先生は長く慶応大学微生物学教室で研究され、米國サウスダコタ大学の客員教授として迎えられたこともある方です。また串田つゆ香先生は、東京女子医大の解剖学教室の主任教授であられ、立派な仕事をしておられます。本会にこのような有能な方がたのおられますことは、本会の誇りであると思ひます。

若い研究者にと始められた研究助成も、もう三回目になりました。この度も全国から二十六件の応募がありまして、いずれも立派な研究で、その中から五件を選ぶのに困難するほどでした。若い女医の研究意欲の旺盛さと、論文の立派さに感嘆し、末頼もしく思ひました。

僻地助成も毎年助成をうけている東京女子医大の無医地区研究会からは、心から感謝されよろこばれております。本年は小出先生のご推薦で、土佐の僻地診療に長い間とり組んでおられた坂本広猪先生が助成をうけられます。地域のため黙々と医療をつづけておられる会員は多数あられると思ひます。何卒!! 今後もどしどしご推薦下さいませようお願ひ申し上げます。

次に今年度、私がぜひ皆様にお願ひしたいことは、会員を増やすこと

にご協力いただきたいことであります。会員増強運動とでも申しましようか、これを全国的にお願ひ申し上げます。会報でご覧下さいませよう。に、会費三年未納により自然退会する制度が発足以来、自然退会者が多く、会員数が漸減してまいりました。会員の会費で会を運営していかねばならない社団法人は、会員数の減少によつてその経済基盤がゆらぐ結果となり、したがつて事業の遂行が十分に行なわれなくなりませす。そこでまず、会員の自然退会を食い止めるべく、会費を三年間滞納しないよう注意していただきたいと存じます。また一方では新入会員を獲得していただきたいと存じます。日本女医学会の存在理由を説明していただき、研究の若い方には研究助成について、中年の方にはもつとも有利な年金制度について説明していただくなど、

入会によつて少しでも見返りのある点などを強調していただくことも必要かと存じます。

本日は評論家水野肇先生の「開業医の将来」という私どもにとつてもっとも身近かなこと、切実なことのお話がありますので、私どもは緊張して拝聴したいと存じます。今後医師の過剰時代を迎えて、医者の将来について考えさせられること多く、また厚生省の医療に対するしめつけがますます強くなつてまいります時、この講演は、もつとも当を得たものと存じます。私どもは立派なお話を承ると同時に、自らが医療に対する確固たる考えを持つことが大切だと存じます。日本女医学会も医者の団体である以上、会としても、この医療問題をとり上げて意見をたたかわす姿勢が必要かと存じます。研修会の席上でもよし、総会でもよいと

存じますが、会員が医療に対する意見を述べあつて、日本女医学会の態度を明らかにすることが必要かと存じます。とくに今年二月から始まつた老人保健の問題など、言うべきことがあると思ひます。医療に対する受身の姿勢から一歩前進する態度に改めるべきことを痛感しております。皆様とともに今年度は医療について考える年にしたいと思ひます。今年度はコミュニケーション年ということですから、お互いにコミュニケーションを強め、手をとりあつて、社会のために尽力しようではありませんか。



### 定時評議員会議事録

日時 昭和58年5月28日(出)  
場所 岡山ブラザホテル(岡山県岡山市浜二(一三)十二)  
午前十一時三十一分開会  
司会/野沢 良美  
社団法人日本女医学会評議員会開催に際し

評議員数 一一二名  
出席数 五七名  
記名委任数 二九名  
白紙委任数 一三名  
合計99名  
以上のとおり日本女医学会定款第二

十七条の定足数に達し、評議員会が成立する旨の報告あり、開会を宣す。会に先き立ち子女佳子会員(大阪十支部)よりのオブザーバーの出席を認めるかを問う——承認  
会長挨拶 三神 美和  
報告  
一、会務報告および事業報告  
久保田くら  
配布済みの資料に基づいて報告あり。  
二、昭和五十七年度特別会計報告  
佐藤千代子

吉岡弥生賞基金  
年金  
ルーベンタン  
国際女医学会記念事業基金  
以上について配布済みの資料にもとづいて報告あり。  
議長選出  
稲生 襄  
議事録署名人選出  
清水五百子・宮川美智子

配布済みの資料にもとづいて説明あり——承認  
二、剰余金処分案 佐藤千代子  
剰余金を次期会計へ繰り越す件を可決  
会計監査報告 添田 百枝  
昭和五十八年四月十九日監査の結果適法かつ正確であることを認めるとの報告あり

議事  
第一号議案  
一、昭和五十七年度一般会計収支決算  
佐藤千代子

昭和五十八年度事業計画案  
〈学部部〉 森川みどり  
1. 講演研修会  
2. 研究助成

第三号議案  
昭和五十八年度一般会計収支予算

3. 吉岡弥生賞  
〈事業部〉 稲葉 幸子  
1. へき地診療への助成  
2. 公衆衛生、社会福祉への助成  
3. 支部助成  
4. 年金  
5. ルーベンタン  
〈渉外部〉 柳瀬 路子  
1. 国内および国際交流  
〈広報部〉 平瀬 文子  
1. 機関誌の発行  
——以上承認

以上承認

丸山 芙美

案 配布済みの資料にもとづいて説明あり——承認

第四号議案

次々期総会開催地について

三神 美和

昭和六十年総会開催地は東京にて開催と決定

閉会を宣し評議員会終了

定時総会議事録

日時 昭和58年5月28日(土)

場所 岡山ブラザホテル(岡山県岡山市浜二(三)十二)

午後一時四分開会

司会/野沢 良美

社団法人日本女医学会総会開催に際し

会員数 二、八八五名

通知発送数 二、八六五名

出席数 一五四名

記名委任数 七六三名

白紙委任数 四三八名

合計1,355名

以上のとおり、日本女医学会定款第二十七条の定足数に達し、総会が成立する旨の報告あり、開会を宣す。

会長挨拶

三神 美和

(1)一年に一度の総会にあたり、全国から多数の会員の出席を感謝する。開催地である岡山の支部長であった井口与志子先生の突然のご逝去にもかかわらず立派な総会を開くに至ったことを心から厚くお礼を申し上げる。

(2)議題についての審議をよろしくお願いしたいとの希望を述べられ、

午後十二時三十二分

議事録が正確であることを証するため議長および議事録署名人の署名捺印をする。

昭和五十八年五月二十八日

議長 稲生 襄

議事録署名人 清水五百子

議事録署名人 宮川美智子

昭和五十七年度の各部での主な活動の報告があった。

(3)当会に対する今後の問題としては、会費を三カ年納入しないで退会してしまう会員が増加しているため、会員数が減少してしまっている。

このため、これを引き止め、同時に新しい会員をふやしていただくことを願う。もう一つは、今度の老人医療法について論議し、女性の集団である日本女医学会としての意見を打ち出すよう努力したい。

物故者への黙祷

昭和五十七年度会員物故者二十名に慎んで黙祷。

報告

一、会務報告および事業報告

久保田くら

配布済みの資料にもとづいての報告あり。

二、昭和五十七年度特別会計報告

佐藤千代子

吉岡弥生賞基金

年金

ルーペンダン

国際女医学会記念事業基金

以上について配布済みの資料にもとづき報告あり。

三、国際連絡書記報告 山崎倫子

(1)国際女医学会第十八回国際会議は、昨年フィリピン・マニラにおいて開催され、日本より三十九名参加した。

(2)国際女医学会第十九回国際会議は、来々七月二十九日から八月四日までカナダのバンクーバーで開催される、テーマは「男と女——生物学的行動的差異」

(4)国際女医学会本部の事務局が本年七月よりドイツのケルンに移転される。

議長選出

今野信子・杉 久子・米林梅子

議事録署名人選出

清水五百子・宮川美智子

議事

第一号議案

一、昭和五十七年度一般会計収支決算

佐藤千代子

配布済みの資料にもとづいて説明あり——承認

二、剰余金処分案 佐藤千代子

剰余金を次期会計へ繰り越す件を可決

会計監査報告 添田 百枝

昭和五十八年四月十九日監査の結果、適法かつ正確であることを認める旨の報告あり。

第二号議案

昭和五十八年度事業計画案

〈学部部〉 森川みどり

1.講演研修会

吉岡弥生賞受賞者による業績発表と広域範囲から興味あるテーマについて特別講演会を行なう。

2.研究助成 各医科大学の女医および会員へ公募し医学分野の発展と向上を図るため優れた研究者に対し研究助成をする。

3.吉岡弥生賞 日本女医学会で医学に貢献した会員および社会に貢献した会員に贈与する。

〈事業部〉 稲葉 幸子

1.へき地診療への助成 無医地区における医療診療に対し補助する。

2.公衆衛生、社会福祉への助成 公衆衛生の向上に対する助成と地域における福祉事業に対する助成を行なう。

3.支部助成 昭和五十七年度会費納入者一件につき二百円を支部運営費として支給する。

4.年金 日本女医学会年金制度加入の勧誘をする。

5.ルーペンダン 新製品の発売とセール期間中の増収をはかる。

〈渉外部〉 柳瀬 路子

1.国内および国際交流 国連N.G.O国内委員会、国際婦人年日本大会の決議を表現するための連絡会、日中医学協会、優生保護法阻止連絡協議会等に

協力する。

〈広報部〉 平瀬 文子

1.機関誌の発行 「日本女医学会誌」を四月、七月、十月、一月に発行する。

——以上承認

第三号議案

昭和五十八年度一般会計収支予算案

丸山 芙美

配布済みの資料にもとづいて説明あり——承認

第四号議案

次々期総会開催地について

昭和六十年総会開催地は東京にて開催と決定

三神 美和

表彰

一、僻地診療に対する表彰 坂本 広猪

二、学術研究助成金授与 飯田さよみ・石井伸子

瀬木和子・田中千賀子

山磨康子

三、吉岡弥生賞 串田つゆ香・杉山太規子・福永ひろ子

閉会の辞 山崎 倫子

午後三時十六分開会

議事録が正確であることを証するため議長および議事録署名人の署名捺印をする。

昭和五十八年五月二十八日

議長 今野 信子・杉 久子

議事録署名人 清水五百子

議事録署名人 宮川美智子

総会を終えて

【岡山支部】

総会後記



津田 操  
杉 久子

麦の秋、あやめ卯の花の美しいこの頃でございます。後楽園の新緑爽やかな初夏のよき日、年来の宿願となって岡山で第二十八回総会が開かれる事になりました。ご遠路はるばるご出席の会長先生はじめ諸先生方のおなつかしいお顔を拝し、本当に嬉しく存じました。

実は一昨年の夏初め、二十八回の総会が岡山で開かれる事に決まりまして、支部長井口与志子、副支部長杉久子を中心に支部の会員の者たちがしばしば会合をもち、昨年夏の終わりには一応、だいたいのスケジュールも決まり、担当の方たちもお引き受けいただくことになり、ほっといたしておりました。ところが十月二十九日、突然井口先生が大動脈瘤破裂で急逝されました。あまりの悲報に一時はいかにすればよろしいかと支部会員一同戸惑いましたが、ご生

いたし、ご懇切なお力添えをいただきました。愛知の森川先生、佐藤先生に

改めてお礼を申しのべ、総会後記といたします。

講演会

「開業医の将来」  
演者 水野肇氏  
講師 水野肇氏

小川 富美

演者水野肇氏は岡山ご出身で、ご多忙なスケジュールを縫っての日帰りの強行軍でご来岡になり、私どものために有意義な講演をして下さった。

その要旨を速記録にとり、私なりにまとめさせていただきます。

\*

ヨーロッパにとってもアメリカにとってもまた日本にとってももつとも弱っており、また困っている問題の一つは医療費がふえすぎるといふことである。その原因はだいたい四つ考えられる。第一は老人がふえること、当然成人病にかかり、一定のレベルを超えた成人病は治らず死ぬまで要治療である。

第二は医療機器の進歩である。昔は聴診器一つ首からぶらさげ、血圧を測るか尿の検査をする程度で内科医というものはなり立っていた。が今は、心電図一つとってもオートアナライザーまで備えるとなると数千円もかかり、また臨床検査も精密

な高価な機器が次々と開発されている。

第三は、やはり薬の問題で、昔の薬はだいたい効かなかった。ところが現在はドラマチックにきく高価な薬が次々と出てきて、薬をもらいに先生のところへ行く、というような心得違いをしている患者が出てきている。

第四は患者がしだいに病院へ流れてゆく傾向にあるという問題である。この例として、スウェーデンについていえば、スウェーデンはここ五十年間、徹底した病院中心主義の医療政策をとってきたが、その政策の目的は住民の数に応じた病院確保さえすれば医療は充分であると考えられていた。そしてだいたい一九七〇年頃には、全国津々浦々に立派な病院ができた。ところが国民の間には非常な不満の声が出てきた。

その一つは、病院にゆくと待たされることである。日本のように、その日行けばどこの診療機関でもその

日のうちに診てもらえるというのは、世界中で日本だけだろうと思う。その分だけお医者さんは忙しいわけだ。スウェーデンでは電話で予約をとることはできるが、たとえば白内障の手術をしてもらうためには、二年待たないといけないということである。その二は、診療が非常に機械的であるということ。人間的な心の交流がなく、たとえば重症な患者がいたとして、昼間みていた主治医でも、時間がくれば開放されて責任をもちたれない。こんなことは日本では考えられない事であるが、病院医療の中では普通に行なわれている。

また別の問題点として、大病院ではみな診療の最終機関だというプライドをもってか、患者が「かぜ」と思ってもスウェーデンでは一応二十三検査をやられており、これも医療面を圧迫する結果となっている。

次に重要なことはスウェーデンでは大病院中心の政策をとったため、開業医に保険の支払いの面で冷たくした。開業医へ行けば償還制でその四分の一は自己負担、四分の三が返ってくるという仕組みである。ところが病院へ行けば当時三クローネ、つまり二〇〇円ほど払えば全部保険でやってくれた。これではみんな開業医へは行かなくなり、開業医の数はどんどん減り、一〇%にまで落ちた。そこで一九七〇年から二年をかけて十七の大病院で外来患者の全員について、その実態を調査した結果、大病院の外来へ行かなくてもプライマ



リーケアでやれる患者が八五%もいることが解った。ここでスウェーデンではその政策を転換し、今度は開業医をつくるという方向に変え、一九七三年から三十年計画で、日本でいけば保健所と開業医の先生と一緒にしたプライマリーケア・センターを作って、健康管理からリハビリテーションまで、少なくとも初期の段階は全部やり、そこでだめなのを病院へ送り込むというシステムに変えようとしている。

次にもう一つの問題、「特定病因論」にふれたい。人間が病気になるのは何か原因があり、その原因を除くすれば患者は治るという考え方で、これは伝染性疾患には適用できるがこの考え方だけでは成人病は治らないという問題が出てきている。成人病は一定のレベルを超えたらどんなに治療しても結果は治らない。癌と動脈硬化については決定的である。

成人病の予防としてどのような対策があるかといえば、三十五歳くらいから年一回定期検診をして早いうちに押え込むということ以外に方法がない。そういう考え方、そしてそれを施策として展開して行く中で、やはり病院医療だけではだめだというところにスウェーデンは思い当たったようだ。そしてまず医者をつやするために一つの大学が春と秋二回医学士を入学させている。そしてふえてきたら秋の方をやめる。

日本のように一県一医大というような方法をとったら医者はふえ続け、

開業医だけでなく医者全体の首をしめるような結果になるのではないかと自分の考えとしては、例を近くにとれば、岡大の医学部では基礎医学に重点をおき、病院を香川・高松につくり、そちらでは臨床だけをやり、第二医学部ということにしたらと考える。この考えを十何年前に文部省に提案したが退けられた。

スウェーデンでは一九八五年にはだいたい医者の数は倍になり、医者の九七%は国家公務員であるので赴任地への拒否はできないから、十分にゆきわたり、プライマリーケア・センターに患者を吸収して、そこで処理できるものは全部やるというふうになると思う。

そういう考えの中で、たとえば老人医療の中の成人病治療はプライマリーケアでやれるという考え方が出てくると思う。六十五歳すぎの九〇%は成人病の臨床所見があるから、もっと若い時からちゃんと管理して六十五歳をすぎても五〇%くらいしか臨床所見のある人がいないというようにしない限り、日本の医療費はもたず、財政的な面からも成り立たないという問題も出てくる。

また米国の医学の発達は専門医制度によるものであり、一九二七年、今から六十年くらい前から始まっている。専門医がこうじて現在アメリカ

カではスーパースペシャリストというランク上の者ができ始めている。これは非常に優秀だが、あまり役に立たない面もある。そしてある程度幅をもったことのやれる医者が必要ではないかということになってきた。ファミリードクターという名のスペシャリストを作る傾向になりつつある。

日本も同じ傾向にあり、将来はファミリードクターという名のスペシャリストの黄金時代が来るのではないかとも思われる。

しかし、現在日本の国民が一番必要としている先生というのは、だいたいあなたの病気はこの辺だという診断のつく先生、プライマリーケアの範囲においてもだいたいこなせるという先生を望んでおり、このような先生がたくさん生まれてくること、国民にとっては一番幸せである。もちろん一見華々しく見える専門医も、医学の進歩のためには必要である。それにひきかえ、一見地味に見えるファミリードクターは、おそらく今後希望者は少ないかも知れない。

医師は生涯教育で、ライセンスを取ったというのとはスタート台に上ったということである。アメリカのデーターでは現在六十歳くらいの医師についての調査によると、大学で勉強した時得た情報はわずかに一七%しかなく、あとの八三%は何らかの形で、その後に自分で獲得した情報であるという。そういう意味からい

えば、これからの開業医の先生は常に新しい知識を身につける事に心がけ、かなり幅広く、しかもある程度深く知っているとすることが必要となり、そのような先生が地域住民の信頼を集めてやっていかれるような時代になるのではないかと思う。

もう一つ問題になるのは病院もつと患者を開業医に返してほしいということである。大病院の専門医は開業医をあまり信用していないようだ。また患者の側にも大病院へいけばいいという考え方があつた。一番重要なのは、大病院の先生と開業医の先生との人間関係だと思つた。そして、患者も医学知識を身につけて、どういう時にはどういふ先生のところへ行つたらいいかということを考えるようにならなければいけない。

これからはつまりファミリードクターが重視される時代が日本にもやってくると思つた。おそらく、今は一番開業医にとつて不安の時期であり、これからい

美しい木々の青葉と鳥城が一望にみわたせるホテル延養の間で、来賓に岡山大学学長大藤真先生、岡山県医師会長永瀬正己先生をお迎えして、

たいどうなるのか首をくくらなくてはならないかと絶望的になられる方がおられることと思つた。昔のように患者をたくさん診て、たくさん薬を出すことで収入を上げるのではなく、技術評価を重視する時代が来ると痛感する。したがってこれからの開業医の先生方は、非常にいろいろな仕事、しかもそれかなりレベルの高い種類も多い、そういう患者を診なければならぬ必要性が出てくるのではなからうか。

これからは、老人医療の中でも、ねたきり老人対策、老人痴呆が問題になり、特別養護老人ホームに収容できる人数には制限があるので、在宅ケアという問題に対して開業医の先生方も積極的にとり組んで協力していただくことが重要である。

最後に先生方ご自身の健康に気をつけてほしい。サラリーマンより医者の方が早く死ぬ。どう考えても国家的損失だと思つた。くれぐれも自愛なさって活躍していただきたい。

最後のパーティー懇親会が華やかに開かれた。会場の一隅には美しく飾られた井口先生のお写真が安置され、やさしいお顔でご覧になっていらつ

懇親会

石井 雅枝

好評だった桃太郎少年合唱団のコーラス



はない」とおっしゃったが、これは果たしてお褒めのお言葉ととってよろしかったのであろうか……。そして年少者の禁煙を強い言葉で呼びかけられた。

ついで井口先生のご先輩土井先生の乾杯の音頭で全員盃をあげ、この会の成功を祝し、日本女医学会の今後ますますの発展を祈った。

それからパーティーにうつり、各テーブルにいろいろと趣向をこらして盛られたお料理に、諸先生方は舌鼓を打ちながら楽しく和やかな時をお過ごしのご様子であった。安原睦子先生の名司会のもとに、プログラムは進み、舞台では森川みどり先生の凛々しい舞踊「黒田節」で余興は始まった。

続いて六十名あまりの少年たちによる桃太郎少年合唱団のコーラスに移った。美しいボーイソプラノに心洗われる想いがしたと会員の皆様にとっても好評であった。終わりに団員とともに懐かしい歌「花」と「荒城の月」を皆様と一緒に楽しく高らかに歌っていた。

プロ顔まけのソプラノ歌手、守安素女先生の素晴らしい独唱が続いて、会は最高に盛り上がった。最後は三神、佐藤、森川三先生方による謡曲「高砂」でおひらきとなり、懇親会の幕は降された。そして興奮さめやらぬ想いでまた来年の再会を約し、名残りを惜しみつつお別れした。

\*

\*

### 観光/Aコース 倉敷・瀬戸の旅より

#### 山名 智子

五月二十八日総会を終え、翌二十九日は観光の日である。朝目覚めると快晴、鳥城が正面に見える。

私たち岡山、倉敷、鷺羽山方面を受持った七人は、全国各地より参集された二十九名の先生方をご案内して、八時半プラザホテルを出発した。旭川の流れを渡り、宿泊したホテルに近い後楽園にまず行く。日本三名園の一つ、小堀遠州による回遊式の庭園である。

五月の太陽を受けた若草色の芝生は、見渡す限り美しい。さつきも見頃。ガイドさんの案内で先生方は写真を撮られたり、園内散歩を楽しまれていた。

再び私たちを乗せたバスは、市街地を西へ西へとゆく。途中、桃太郎の昔噺に桃が流れて来たと言えられる笹ヶ瀬川、犬飼木堂翁のご生家、水攻めで名高い高松城址、そして堂堂たる近代的大建築の川崎医科大学、および関連建築群等々。バスの中からではあったが、熱心に説明を聞いておられた。

アイビースクエアという明治二十二年に建築された倉紡を改造した建物、明治のロマンが漂うみどりの蔦と赤い煉瓦の美しい文化施設に、やがてバスは着いた。

大原美術館、民芸館を次々見学して、「柳並木と白壁の街」のキャッチフレーズで全国に有名になった倉敷川畔を散策。日曜日ともあれば、この道は若者で溢れている。

アイビーで昼食、京風繊細な女性向きの料理は、諸先生に喜んでいただけたようである。一服してお腹もでき、最後の観光地鷺羽山に向かう。昨日のサツと降った雨上りの五月晴れという、よい条件もあったためか、今日の鷺羽山は一段と清澄明瞭に遠景まで見ることができた。ガイドさんも「たびたび来ますが、今日は見え過ぎやワ」と言ってみなを笑わせるくらい。

海を隔てた香川県坂出のズラリと並んだ石油タンク、工場の煙突の煙までよく見えた。この美しい島々に、瀬戸大橋の橋

脚が組み建てられ、風致はいささか壊されたが、六十二年完成の日にはお元気でまた来ていただきたいものと思った。

バスはスカイラインをスイスイと走り、右に左に素晴らしい瀬戸の眺めを一同満喫しながら山を下る。広大な水島コンビナートを左に見て、私たちのバスは一路岡山駅に向かった。

お年を召したお方も多くお見受けした諸先生方、よく頑張っていただき、一名の落伍者もなかったことは、私たちの何より嬉しいことであった。帰りのバスの中は、若々しいコーラスも響き、楽しい思い出となる旅は無事終わった。予定の時刻に名残りを惜しみつつ岡山駅で解散。

諸先生方の無事ご帰宅を念じつつ、旅の報告といたします。



倉敷市内

観光／Ｂコース

備前の里を訪ねて

小川 富美

素晴らしい好天に恵まれ、備前観光へのバスは県外会員四十五名、岡山支部の者九名、総勢五十四名をのせて定刻八時半にプラザホテルを出発した。

まず後楽園でお城をバックに記念撮影をして、緑にもえた園内を散策お抹茶ときびだんごで一服していた。

それから東と西とバスは別れて、



開谷校の門

私も一路竹久夢二の里へと向かう。途中名刀で有名な備前長船の近くを通る。

夢二の生家はワラ葺きのものさびしい農家風の家で、庭には昼なのに宵待草がひっそりと咲いていた。

東京の夢二晩年のアトリエをそのまま復元されたという「少年山荘」を見学する。夢二ゆかりの人々の写真も展示され、たまき、彦乃、そしてお葉の美しい写真を見ながら、若き日の夢二に想いをはせる。夢二にとっては、二十五歳で逝った女子美術の画学生であった彦乃が終生忘れ得ぬ人であったらしい。バスにのってもすっかりロマンチックになってしまった私どもは、宵待草の歌をガイドさんと一緒に歌い、切ない想いに浸った。

夢二の里をあとにして、バスはブルーハイウェイに出て、田園風景を眺めながら進む。備前インターチェンジで再び道幅の狭い旧道を走り、日生に着く。日生は岡山でも屈指の漁港である。鹿之居荘で昼食をいただく。船形に山と盛られた瀬戸の

新鮮な海の幸に皆様ご満足のご様子であった。シャコの皮むきには悪戦苦闘しておられたようだ。

食事をすますとそこに、またバスに乗り開谷校へと向かう。

小高い丘のふところに抱かれた開谷校は、いつ来ても美しい風景と、静かなたたずまいをみせてくれる。昨夜の雨に洗われた今日の開谷はとりわけ美しく、目覚めるばかりの新緑に備前やきの屋根瓦が映えて、なんとも言えぬ調和をみせている。一六六六年、今から三百年あまり前、当時の名君備前藩主池田光政によって建てられた庶民のための一大道場で、大寺院のような風格の講堂の床は今もなお黒光りして、鏡のようにみがかれています。案内のおじさんがとても丁寧に説明して下さいました。岡山に住みながら私どもも再確認した思いであった。

開谷を出て備前やき窯元「備州がま」を見学する。かまに入れるまでの工程の説明をきき火入れしていた「登り窯」をみていただく。

備前やきは日本古窯の一つといわれ、昔ながらの伝統を受け継ぎ、一切釉薬をかけず、土と炎がからみ合って独特の美しさを表現するといわれている。

素朴な渋い味わいのある陶器で、とりわけ花入れは洋花も和花もどれもびつたり調和してくれる。

これで一応観光の旅を終え、「下津井節」などガイドさんの美声に耳を傾けながら、四時過ぎ予定より少

少早めに岡山駅へ到着。皆様お揃いでお元気に、無事お見送りすること

宿泊係を担当して

大本佐和子

第二十八回日本女医学会総会が岡山で開催されることになり、岡山支部は実質人数も少なく、郡部にお住まいの先生方も多いため、市内在住の若手(?)の私どもが、長老津田先生のお申しつけで、雑用係としてお手伝いさせて頂いたことになった。

ところが、いつの間にか宿泊係というたいへんな役割が付き、本倉、延藤、大淵の三先生と仕事をすることになった。「宿泊係は最後までごたごたするわよ」と、先輩諸先生から言われていた通り、二月締切り後も追加、キャンセル、ツイインのお相手の変更など、数え切れぬほどあり、夜名簿を書き変えていると、子供たちに「またやっているの?」とあきれられるほどだった。前日まで予定がはつきりしないからというお申し出もあつた。皆さまご多忙の方ばかりなので、これらは無理もないことだし、また覚悟もしていたので、とくに苦労とも思わなかった。問題は、当初余分に確保してあつたホテルの部屋を、実際部屋割に入ってみると、

ができ、支部会員一同心より嬉しく安堵の思いであつた。

結婚式を入れたとかで勝手に減らされ、シングルの部屋が極端に不足したことだった。とくに二十八日はツイインを全部使っても一室の予備もない状態になってしまった。お申し込みにツイインでも良いと書かれた方や、三月以後に申し込まれた方などは、両小川先生ともあれこれ相談したが、最後にはあまり複雑になり、二室の先生方には申し訳ないと思いつつも勝手にツイインを組ませていた。小川文字先生のお宅で夜十一時過ぎまでかかって最終チェックをし、万全を期したつもりだったが、二十七日はお二人のリスト漏れがあつたり、二十八日のつもりで二十七日に申し込まれた方があつたりで、前日は夜十二時半まで、当日は朝六時から両小川先生を電話で悩ませる始末だった。二十八日には荷物か他室へ移されてびつくりされる先生もあつたりで、まことにテンヤワニヤの宿泊係だった。

しかし、無事厳粛な中にも和やかに総会も終わり、余興もすばらしい

懇親会、天候に恵まれた観光と、宿泊以外はすべて順調に行き、何よりだった。両小川先生の細やかな心遣いにいろいろ教えられるながら、苦心

したつもりでしたが、結果は何かと不手際なことが多く、また地方都市の小ホテルで皆様のご満足にはほど遠かったと思う。お部屋のことでご

迷惑をおかけした先生方には心からお詫び申し上げ、宿泊係の報告としたい。

吉岡弥生賞を受賞して………

神奈川支部 福永ひろ子

第二十八回日本女医学会総会において、吉岡弥生賞を頂戴しました事は、女医として最高の荣誉であり、無上の光栄と存じます。受賞に際しまして、私を推薦して下さいました、神奈川県支部の皆様から感謝いたします。

私が当箱根にまいりましたのは、第二次大戦の末、昭和十九年の暮でした。医師従事令書という当時の召集令状と同じもので、この令書でまったく未知の土地へ赴任したのです。この一枚の紙切れが、私の人生を大きく変えました。以来三十九年箱根山頂地区で唯一の医療機関の医師として、都会の病院や、開業の先生方と異なった道を歩んでまいりました。

ながら山を下ったものでした。往診はもちろん徒歩で……。真冬の雪道で、崖から転落し凍死寸前になった事もありました。その頃、箱根には住民の他に、疎開者と疎開学童に加えて、神奈川県在住外国人(白系ロシア・独・伊・仏人、日本近海で沈没したドイツ潜水艦の乗組員等々)がホテルや民家に収容されておりました。ドイツ人が多く、医専時代に習ったドイツ語が非常に役立ちました。村の娘とドイツ海軍の水兵とのロマンスの通訳をしたり、恋文の代筆をしてやった事もありました。

疎開学童の風騒動、栄養失調、肺炎、外国夫人のヒステリー、お産等等。それこそ何でも屋で、またできないという事は許されない状況でした。学校をでて、附属病院に一年いただけの臨床経験のない私にとって、学校時代のノートと数冊の医学書が唯一の頼りであり、今から思えばまったく冷汗ものの毎日でした。そんな状況下で、神奈川県から派遣され

た二人のベテランの看護婦は、若い私を陰になり日向となつてかばつてくれて、その献身的な協力は私の医療活動の大きな支えとなりました。そして終戦。すべてが変わり、箱根も年間百五十万人を越える内外の観光客で賑い、それに伴い、自殺者も出て来て、検視や未遂を含めて千数百件も扱いました。しかし医療面でこれでいいのかと、患者さんに申し訳ないとのジレンマに悩み、当面の患者を最後に山を下りようという度にも考えましたが、日を重なるにしたがい、住民と私との間にいつしか家族のような連帯感が生まれて来て、私を頼りにしている住民のために、この地に骨を埋めようと決心し、医師会や大学の諸先生に教えを乞い、手始めに消化器の勉強を始めました。それが今になって当箱根地区の消化器集団検診体制を作るのに非常に役立ちました。また乞われて教育委員になり、山の子供の心身の健全なる成長に、学校と家庭間のパイ役と

僻地診療に対する表彰を受けて

表彰を受けて

高知支部 坂本 広猪

私が永年辺地で医療をし、また校医をしたことで須崎市より表彰されたため、高知県女医学会長小出先生のご推薦により日本女医学会より僻地診療助成を頂戴することになりましたこと、夢のようでもまことに身にあらざる光栄に思います。

これというのも、故吉岡弥生先生よりいただいた「誠如神」の額を毎日拝し、ひたすら、ひとすじに、ただ無心で医師の務めをしてきただけのことです。

高知県にはもともと立派な女医さんがいらつしやるのに、年長の故でございませうか、まことに思ひもよらぬありがたいことです。

いつも困った時、わからない時、先輩後輩に教えられる励まされ、心のささえとなつていただきまして、たいした失敗もなくここまで無事にやってくれたことは皆様方があたたくくみまもって下さったお蔭と、心

から深く感謝のお礼を申し上げます。当地は不便なところで、代々医を業としていましたので、これがあたりまえと思つて、朝も早く夜もおそく舟にのつたり、また山坂を何里も歩いて往診し、苦しいことが多かったのですが、最近道路もスカイラインもでき、少しづつ便利になりましたので、このような立派な賞をいただくことは恐縮の至りでございます。

ありがたや弥生賞うけ老の身に若葉かがやく岡山の里

人のため世のためここに五十年くすしの道に命ささげて

すこやかにそだち行く児と共に生き 校医となりて 三十路たちけり



なつて微力を尽くしております。  
無我夢中で過ごした三十九年間の、  
私のささやかな歩みを評価して下さい

いました諸先生に、感謝するとともに、  
明日からは記念楯に刻まれた先  
覚吉岡弥生先生の御名に恥じる事の

ないよう地域医療活動に徹する覚悟  
しております。  
ありがとうございます。

吉岡弥生賞を受賞して

※

この度、吉岡弥生賞を受賞させて  
いただきまして、身にあまる光栄と  
存じております。これは、三神会長  
をはじめ、諸先生方のご支援の賜と、  
深く感謝いたしております。

私は、恩師久保田くら教授の下で、  
約三十年間、解剖学を専攻いたしま  
した。解剖学は、医学の中でも、も  
つとも基礎的な、地味な学問である  
ことは、周知の通りであります。こ  
の道一筋とは申せ、私には、家庭と  
の両立という難問題もあり、何度か

挫折の時期がありました。久保田先  
生のご理解、寛容そして叱咤激励が  
なかつたら、ここまで到達すること  
は、到底不可能でした。

受賞の対象となった研究テーマは、  
「生物組織における同一切片上の電  
子顕微鏡と光学顕微鏡との対比観察」  
で、すなわち、光学顕微鏡の染色を  
施した試料を、電子顕微鏡でも観察  
可能にしたものであります。これら  
の研究は、組織学分野における発展  
には、いささかの貢献をいたしましたの

東女医学内支部

申田つゆ香

ではないかと思っておりますが、医  
学への貢献となりますと、なお、ほ  
ど遠い感があります。今回の過分の  
受賞は、私自身はもろんのこと、  
同じこの道を歩む若き後輩たちにも、  
いつその励みになったものと存じ  
ます。

榮譽ある吉岡弥生賞の名を汚すこ  
となく、教育に、研究に精進を重ね  
ていくつもりでございます。よろし  
く、ご指導、ご鞭撻のほど、お願い  
申し上げます。

吉岡弥生賞を受賞して

※

目黒支部

杉山太規子

このたび吉岡弥生賞をいただきま  
して身にあまる光栄と存じます。こ  
れもよき師、よき先輩、よき友、理  
解ある家族に恵まれたおかげで、感  
謝にたえません。これからますます  
励まねばと思っておりますので、今後とも  
よろしくご指導、ご鞭撻下さるよう、  
お願いいたします。

また日本はまだまだ男社会で、女  
が一生の仕事が続けようとすれば、  
草分けの方々のご苦労ほどでなく  
も、女ならではの苦労をさげられな  
い現状ですので、あとに続く若い方  
がたのために、少しでもお役に立  
ればと思っております。



学術研究助成のご案内

会員の学術研究に対し助成事業を  
行なっております。希望者がありま  
したら、応募要項にしたがって、事  
務局あて申請下さるようお願い申し  
上げます。

記入。  
正一通と副一通(コピー)を提  
出(用紙は事務局へ請求のこと)  
(4)申込期間  
昭和五十八年十二月二十五日必  
着

一、助成の趣旨

(5)選考および発表方法

医学分野の発展、向上を図り、後  
進の研究助成を目的とする。

選考委員会において選考の上、  
昭和五十九年三月末開催の日本  
女医学会理事会において決定し申  
請者宛通知する。

二、助成金額

(6)助成金の贈呈

総額一〇万円(三、四件)

昭和五十九年五月二十六日開催  
の日本女医学会総会の席上

三、申込手続

(7)受賞者の本会に対する義務

(1)応募資格  
日本女医学会会員(新規加入者を  
含む)で個人、またはグループ

昭和六十年三月末日までに研究  
経過報告(B5原稿用紙三枚)  
と助成金使途についての簡単な  
収支報告の提出のほか、後日、  
日本女医学会主催の研修会におい  
て研究内容について発表をする  
こと。

(2)助成期間  
一年を原則とする。継続を必要  
とする場合は改めて申請を要す  
る。

(8)送り先  
日本女医学会本部

(3)応募方法  
本会所定の用紙に、黒インキで

吉岡弥生賞候補者推せんについて

昭和59年吉岡弥生賞授賞の適格者  
を本会理事または支部長宛にご推せ  
ん下さるようお願いいたします。

願います。  
一、自筆履歴書(写真添付)  
二、業績  
イ 医学に貢献した現会員  
ロ 社会に貢献した現会員

締め切り期日は本年末日までに願  
います。  
なお次の書類を添えご推せんをお

三、推せん理由

# 岡山にロマンを追って

総会に参加して

都下支部 清水五百子

前日の雨もきれいに上がり、快  
い五月の風に恵まれて、午前八時半  
ホテル出発。後楽園、竹久夢二の生  
家、少年山荘、日生港、閑谷学校、  
備前窯元へと満員のバスは向かった。  
ホテルは後楽園の南に川を隔てて  
あり、すでに緑の美しい森を見渡し  
ていたのがあったが、中に入れば名  
にし負う名園であつて清掃も、樹木  
の手入れも行き届き心の洗われるば  
かりであつた。

公園の入口には葉間に白い小さい  
房状の花と、去年の茶色に染つた実  
をつけたままの太木があり、珍しい  
“せんだん”であつた。

園の中は旭川の水をとり入れてあ  
る澄んだ小川と、とりどりの“さつ  
き”の花が満開で、しかも一羽の白  
鳥もいて陽射しに映え、この上なく  
美しい。

竹久夢二の浪漫は、われわれ年代  
のものには誰も知るところであり、少  
女期の夢を再び胸に甦らせながら生  
家を訪れた。

生家の庭には、夢二の代表作「宵待  
草」に合わせるように、黄、白、ピン

夕色の宵待草の変種であろう花が咲  
き乱れ、いつの間にか夢二の抱いた  
ロマンの中にひき入れられる思いで  
あつた。生家には飄飄とした夢二独  
特の少女の絵、詩が美しくかかれた  
作品がならび、地続きのよ様な近い  
所に少年山荘があり、中には同じよ  
うに作品がならぶと同時に、夢二の  
恋人たちの写真、日常用品等も飾  
られて、夢二の生活を偲ぶことがで  
きた。少年山荘とは、生前に東京世

田谷に夢二がアトリエとして建てた  
もので、子供の不二彦さんによつて  
考証記憶をたどつて現地に復元され  
た由であり、命名は夢二で、またの  
名を“山婦来荘”とも言われたとの  
ことである。

ゆつくりと明治、大正、昭和初期  
のロマンに浸りたいのであつたが、  
時刻の流れに諦めて、閑谷学校へと  
移動した。

閑谷学校とは三百余年前、備前藩  
士池田光政によつて建てられた庶民  
のための学校である。場所も山間の  
峡谷にあり、現在でもたいへんに静  
かな所であつた。現在も岡山県青少

年教育センター閑谷学校として使用  
されているという。備前焼の瓦で葺  
かれ、堂々とした建物の講堂と、他  
に孔子廟、閑谷神社と三つが周囲七  
百六十五メートルのかまぼこ型の石  
積みみの堀にかこまれている。

この石堀は中国伝来の精密さで積  
まれ、土を全然保有しないために草  
一本も生えていない珍しさであつた。  
講堂の材料は檜、樺、楠などで、し  
かも漆が吹きつけられている由であ  
り、床は黒光りして鏡のようであつ  
た。

部室の隅に積み重ねられた丸い葉  
で編んだ座蒲団を見ると、これを敷  
き、正座して机に向かう少年たちが  
彷彿として来た。庭には雑草も塵も  
なく、維持者の労苦と心根がみえ、  
精神訓練の出発点と成果とが眼にみ  
える感じであつた。

そろそろ空腹を覚える頃、漁港日  
生の町につき、岡山の先生方の心の  
こもつた準備による新鮮な海の幸  
が並んだ食卓につくことができた。  
お魚のあたりしきはたいへんなご馳  
走であり、また中であつた“蝦蛄  
(シヤコ)”の皮をとることに少し

難儀で、岡山の先生のご指導で何と  
かおいしくいただけ、あちこちで格  
闘している姿がみえ、笑いも起きて  
いたり、おいしいという喜びの声も  
きかれて、楽しいお食事であつた。

最後の目的地、備前焼の窯元に到  
着すると、整えられた窯場に、燃え  
さかる窯の周りで、備前焼の陶土の  
話、燃料、焼き方等の説明、陶土の

実際の製作振り等を見せてもらい、  
展示品に魅せられた。各自土産品等  
を求めて帰路についた。この備前の  
土で自分で練つて何かを作つてみら  
れる時間があつたらよかつたと惜し  
まれた。

## 岡山支部での日本女医学会総会

翌日の観光旅行に参加して

神奈川支部 中濱 昌子

私は今回初めて、地方で行なわれ  
る日本女医学会総会に出席いたしまし  
た。

二十八日の朝、首都高速道路を走  
りながらお天気を喜んだのも束の間、  
羽田空港で岡山行きは天候調査中と  
いわれ、まったく不安に包まれました。

しかし、約十分遅れただけで飛  
び立った時はホッとしました。眼下  
に展開した三浦半島を眺め、「頭を  
雲の上に出し……」の小学唱歌その  
ままに雲の上に聳える富士山の頂き  
を仰ぎ見、比較的穏やかな飛行で岡  
山空港に着いた時は雨も上がつてい  
て、やれやれと安堵いたしました。

総会、懇親会については省略いた  
しまして、ご依頼に応じ、翌日の観  
光旅行について拙い感想を記します。  
二十九日は抜けるような快晴。何  
よりの観光日和でした。

ホテル―後楽園―倉敷・大原美術  
館・民芸館・アイビースタジアにて  
昼食―鷺羽スカイライン―鷺羽山―  
岡山駅のAコースに参加いたしまし  
た。

二百七十年前に備前藩主池田綱政  
が、十四年の歳月をかけて造らせた  
遠州流の庭園(日本三大名園の一つ)  
後楽園では凝つたすばらしいお庭の  
造りを堪能しました。お城から船で、  
それから駕籠で、その駕籠を着けた  
という一枚石の上に乗る、昔人の姿  
・生活ぶりを想像し、緑の燃える自然  
の芝生に足を踏み入れ、足の裏に伝  
わるソフトな感触を大切に、またお  
抹茶とともに特製の吉備団子をゆっ  
くり味わいました。

岡山ではフェイスの黒いビルがあ  
ちこちに見られ、これは岡山城(烏  
城)・備前焼(地味)に由来すると

聞き、なるほどと感心しました。  
倉敷へはいいり、ロダンの彫刻に迎  
えられた大原美術館(本館・新館)  
ではさすがに日本のトップクラスの  
美術館といわれるだけあってすばら  
しい世界の名画・彫刻の数々を、ま  
た民芸館では世界から集められた四  
千点の民芸品を鑑て廻りましたが、  
少し時間が足りず、じっくり鑑賞す  
ることができなかったのがいささか

残念でした。アイビースクエアで昼  
食。お土産を求めて鷺羽スカイライ  
ンへ向かいました。  
鷺羽山展望台からの眺めはまた格  
別でした。眼下に建設中の瀬戸大橋、  
塩飽諸島だけでなく、大槌島、鬼  
ヶ島、屋島、高松市と対岸の四国ま  
で手に取るようにくつきりと眺める  
ことができました。  
「今日はよいことばかり、強いて

悪いことといえば、お天気が良過ぎ  
て見え過ぎたことかしら、あまりに  
見え過ぎて私の説明できないものま  
で見えて——」とガイドさんが冗談  
交りに言うくらい素晴らしい眺めを  
満喫できて感激でした。  
素敵なプランを立ててくださった  
岡山支部会員の皆様に心から感謝  
するとともに、来年当番の神奈川県  
支部の一員として、責任の重大さを

感じつつ帰途に着きました。  
いにしへの雅の生活想ひつづ  
歲月かけし庭園歩む(後楽園)  
権石と松島釜島六口島  
合せ眺めぬ鷺羽に佇ちて  
\*付記  
——神奈川県支部長稲生襄先生よ  
りの伝言——

次回の日本女医学会総会は、  
昭和五十九年五月二十六日(土)、  
二十七日(日)  
神奈川県で行ないます。  
この度の岡山へは神奈川県より十  
一名大挙? してまいり、いろいろ  
勉強させていただきました。  
来年は多数の皆様のお越しをお待  
ちしております。どうぞ奮ってご参  
加くださいませ。

# Regular Letter No.73

国際連絡書記 山崎 倫子

ウイーン事務局からの最後のサー  
キュラーを送ります。六月二十日を  
もってこの事務局は閉鎖されます。

新事務局は、

MWIA Secretariat  
Haedenkampstrasse 1  
D-5000 Cologne 41-Lindenthal  
Fed. Rep. of Germany

○第二十回国際女医学会議

前回郵便による投票によって第二  
十回MWIA会議(一九八六または  
八七)開催の場所が決まりました。  
イタリア 40。アイルランド 25。  
インド 5。南アフリカ 3。  
したがって、イタリアに決定。た  
だし都市についてはイタリア女医会  
で今後検討することとする。この件  
については八月のケルンでの国際役

員会に提出される。

○第二十一回国際女医学会議

開催国はバンクーバーでの総会で  
審議決定されるが、主催してもよい  
と考えの女医会からの招待をお待  
ちしている。ぜひ八月ケルンでの会  
議までに申し込んでほしい。なお、  
トピックについても同様、ご意見を  
寄せて下さい。

○マニラ会議の報告ができ上がった  
ので、近々送られる予定です。

○国際女医会定款および細則の修正  
定款および細則委員会がマニラで  
結成され、Dr. Beryl Corner が委  
員長に就任された。ご意見があれば  
直接Dr.コーナーに送られたい(住

所は連絡書記までおたずね下さい)。

○姉妹団体関係

大分以前に、発展途上国と工業  
国との姉妹団体関係について知らせ  
たことがあります。この件がマニ  
ラでの総会に上程されました。  
現役員会において、どのような  
“対”ができるか計画してみたいと  
考えます。現在、いくつかの工業国  
および途上国側の女医会から関心が  
示されています。まず途上国側から  
工業国女医会と、“対”になりたい  
かについて意見を聞かせてほしいの  
で、八月のケルンで国際役員会に間  
にあうよう返事を下さい。

さて、いよいよお別れを申し上げ  
る時がきました。長年にわたる、  
Mrs. Dax と私に対するご親切とご  
協力に深く感謝します。  
ごきげんよう。

Dr. Martha Kyrle

(山崎 訳)

## 支部近況

### コミュニケーションを大切に

福岡支部 加藤 竺子

長い沈黙と言うか、無気力(支部  
長)と言うか、何の支部活動もしな  
いまま漫然と成りゆきを見つめてい  
た福岡支部でしたが、去る四月二  
日、たまたま山崎倫子副会長が他の  
用件でご来博されるのを機会に、久  
しぶりの会を開かせていただきました。  
山崎先生はたいへんお忙しいスケ  
ジュールの中を、当日、福岡商工会  
議所婦人会の主催で「世界平和と婦  
人の地位向上運動」と題して講演さ  
れ、女医会の会員も一緒に拝聴しま  
した。先生は昨年第三十七回国連総

会に、日本政府代表代理として出席  
され、堂々と政府代表としての重責  
を果たされた折の、国連舞台裏のこ  
ぼれ話や、国際政治の場でのかけひ  
き、各国婦人代表のキャラクターや、  
アメリカの実情など、ご経験を通し  
ての豊富な内容を、先生の卓越した  
語学力で、生に感じとられた国際感  
覚を通してお話しになり、三百人あ  
まりの福岡の婦人の聴衆は、強い感  
銘をうけました。  
引きつづき、ご帰京の飛行機の時  
間までの三時間ばかりをいただき、  
支部会員が先生をかこんで水入らず

で、日本女医学会の現状や考え方など、お話をうかがい、意見の交換をいたしました。女医学会に加入しているというだけで、細々と日本女医学会、国際女医学会という大きな組織につながっている支部の立場を反省させられました。考えてみれば、私どもの日本女医学会も日本の歴史とともに世界の情勢の中で、好むと好まざるとにかかわらず、国際女医学会のメンバーとしての責任や役割が大きく位置づけられているのだと思います。

一方国内情勢に目をやりますと、医師過剰化の声をよそに、男女共学の中で若い後輩がたくましく育ち活躍しています。押し寄せている高齢化社会の中では、いまなお頑張りつ

### 千葉支部現況

昭和三十二年八月六日、本部より支部結成促進の通知を受け、至誠会花岡常子先生と、鶴風会犬飼美代先生、その他有志の諸先生が、準備会を重ね、同年九月十五日、竹内茂代、龍智恵子、両先生をお迎えし、千葉市内「ほてい家」において、三十九名出席の下に、千葉支部は発足しました。

以来、二十七年間、花岡常子、犬飼美代、田島喜美子、石井幸子、田那村恵津子、平松麗子、久田タカ、

づけてはいる熟年先輩の現実、さらにライフサイクルの延長の中で医師として妻として母としての役割を両立させながら、プロの職業人として生き抜くには、それなりの厳しい現実を認めないわけにはゆきません。こうしたさまざまな課題を共通の問題として考え、学びあい励ましあう場として、支部会が役に立てたらいいなあ、と思います。今年は国際コミュニケーション年だそうです。コミュニケーションの大切さ、現実の問題として言うはやさしく、行なうはむつかしいことを痛感しながら、全国の先輩の先生方のご指導、ご支援を心からお願ひいたします。

### 千葉支部 宮本 みち

私、宮本みち、と代々会長を推薦により決め、本部とともに、歩んでまいりました。

本年三月二十七日、第二十七回総会通知のご返事を基調に、会員の動静を調べてみましたので、ご報告いたします。

千葉県の会員は、新加入の先生も総武線、常磐線沿線の人口急増都市に集中し、外房、中南部房総は疎になり、出席率に一致していません。新加入会員の回答率二七%(表1)

には、がっかりでした。私自身、かつて、先輩の先生から、得るところが少なくありませんでしたので、ご出席を切望します。総会は、船橋そごうデパート・ららぽーと七階、レストラン・オークラにて、左記のごとき議事を決め、カラオケも賑々しく、意義有りの会でした。

表1 支部総会の案内に対する回答率

	旧会員	新会員	支部のみ加入会員	計	%
会員数	71	15	8	94	
回答あり	50	4	8	62	66
回答なし	21	11	0	32	34
出席	16	0	3	19	20

表2 昭和57年度より加入の新会員15名の情况

鎌ヶ谷市	昭45年卒	内	東女医	
佐倉市	46	外	〃	
松戸市	32	産	〃	○
習志野市	26	内・小	札幌医	○
	54	小	東女医	
	57	内	東邦医	
市川市	45	内	東女医	○
	48	小	東邦医	○
千葉市	54	内	千大	
	54	皮	独協医	
	41	内	千大	
柏市	52		東女医	
我孫子市	46	小	〃	
	24	耳	〃	
船橋市	53	皮	埼玉医	

○印回答あり

- 一、昭和三十三年に、とり決めた支部会則は、改正の要あり。他県会則を参考にさせていただき、草案を作り、検討し、来年総会で決める。
- 二、本部は、定款施行規則改正で、三年間会費滞納者は資格喪失ということですが、とり消す前に連絡してほしいという意見が出ました。今年度は、本部から連絡がありました。古く、古い会員が消されるのは淋しいことです。
- 三、勲五等瑞宝章を受賞された林千代先生に、記念品を贈呈しました。先生は健康の権化のごとく、まだまだ、もう十年くらい診療したいというご挨拶でした。
- 四、四代目会長石井幸子先生に、ご病気、お見舞をさしあげました。

### 会員の消息

\* 添田百枝 (渋谷支部)

東邦医・昭和11年卒

先生には永く免疫療法の研究に専念しておられますが、その過程において、昭和48年、アレルギーの新治療薬MSアンチゲンを発見され、この度保険薬として収載されることになりました。先生のご

五、大正十年卒・小松フク先生、大正十一年卒・赤松せつ先生は、まだご診療をなされていらつしやる由ですが、歩行困難というお便りがあり、総会の決議により、ご機嫌伺い(ロイヤル・コペンハーゲンのモーニング碗皿)をさしあげ

ました。大正年間に、女医になられた二先生、ご立派です。六、総会通知にご返事なき三四%を、今後再検討してみる。支部は親睦交流が第一の目的であるために。

成果を心からお祝ひいたします。

\* 福永ひろ子 (神奈川支部)

関西医・昭和18年卒

昭和58年5月14日、地域住民の保健衛生と医療の向上に貢献されたご努力に対し、神奈川県民功労賞を受賞されました。

昭和58年6月19日、関西医大同窓会50周年記念に際し、社会に貢献した功労多大なものとして、表彰をうけられました。



理事会議事録

日時 昭和58年3月26日
場所 日本女医会 会議室
出席(敬称略)
三神、福永、稲葉、久保田、佐藤、佐野、白橋、野沢、橋本、平瀬、

丸山、森川、八木、柳瀬、明石、荒木、石川、石原、井上、鶴川、川口、川島、関口、野呂、蓮井、町田、三好、添田、西山、山口、欠席(敬称略)
小俣、山崎、鈴木、藤井、藤田、マッキンストリ、森、山本
庶務報告 久保田常任理事

2月24日 国際婦人年全体会議に柳瀬常任理事出席。
2月27日 常任理事会および第5回講演研修会を京王プラザホテルで開催する。
3月22日 広報部会を行なう。
その他
(1)火災保険に事務所、会議室を継

続加入手続きする。
(2)故阿部十七先生ご遺族より香典のお礼状あり。
(3)ローズベイ青山ビル(渋谷区渋谷二一九一九)新築工事概要書あり。
(4)全国女子医学生生の会より活動報告書および通信紙あり。
(5)岡山総会出席予定数(3月24日現在)百五十名。

助成することを決定。
飯田さよみ
石井 伸子
瀬木 和子
田中千賀子
山磨 康子
(2)JIMSA(日本国際医学生交流連盟)よりの助成申請に対し五万円助成することを決定。
(3)国際科学技術博覧会協会より診療奉仕活動の依頼に対し、種々検討の結果、全会期中、一定人数を常在するボランティア活動は無理であるとする。
(4)へき地診療助成として坂本広猪先生からの申請に対し十万円助成することを決定する。
(5)日本病院ボランティア協会より支援の依頼について
賛助団体として九千円送金する。
(6)国際女医会本部より問い合わせ役員推薦について一九八四年〜一九八六年の間、副会長候補として佐野アヤ子氏を推薦する。
(7)岡山総会出席のため新幹線乗車手配について
昭和58年5月28日、東京発6時12分(ひかり)に乗車希望を受く。
(8)東京都支部連合会について
東京都各支部長と役員準備委員とにより東京都支部連合会を4月17日に開催する。
(9)日本女医会会員に関して

忙中閑

佐藤博物館

甲冑に魅せられて

長野支部 佐藤 里子

日本の屋根と呼ばれる信濃の国は、峻烈な山々に囲まれ、清澄な河川に恵まれた山紫水明の地です。その昔、戦国の世に、甲冑に身をかけた甲越の軍団が攻防に明けくれ、山々には砦が築かれ、河川は血に染まった激戦の地でもありました。

長いこと、何日でも滞在し、甲冑武具の蒐集に努めてまいりました。念願かない、昭和五十五年十月、多数の方がたのご協力を賜りまして、財団法人佐藤博物館の創立と開館をみる事ができました。博物館の庭園には、敷石に真黒石の角形の縁取で、兜の前立を思わせ、庭石は、武将たちの立ち、坐りしている姿勢とし、若干の金箔を押ししてあります。昨年、主人急逝のあと、病院と主人の役職および佐藤博物館関係の仕事を手

に引きつぎました。私たちの収集の思い出のこもった甲冑群。その中に並んで、私財と生涯を文化財保護に捧げた主人の魂がともに生き続け、あとに残った私を見守ってくれる思いがします。
収蔵および展示の品は、国の博物館と比べ微々たるものですが、志賀高原、湯田中温泉においでの際は、お立ち寄り下さいませ。
上杉家伝来「金小札白絲威緋日の丸紋柄威重具足」室町時代 上杉景勝着用及び御代々元服着用(重要文化資料)



- 一、昭和五十七年度決算案の件
(1) 昭和五十七年度決算について別紙資料とおりの報告あり。
三月末までは、多少数字が動く。
(2) 俸給諸給諸手当は、予算額より大部減額となっているが、事業にかかわる時間外手当が少なく済んでいる。
二、昭和五十八年度予算案の件
(1) 昭和五十八年度予算案について別紙資料とおりの報告あり。
(2) 什器備品費百万円。
(3) 運営準備積立金繰入を百五十万円。
(4) 修繕積立金繰入を五十万円。
(5) 予備費を百九万三千三百六円。
三、その他
(1) 学術研究助成決定について
学術研究助成応募者26名について審査の結果五名へ各三十万円

- (2) JIMSA(日本国際医学生交流連盟)よりの助成申請に対し五万円助成することを決定。
(3) 国際科学技術博覧会協会より診療奉仕活動の依頼に対し、種々検討の結果、全会期中、一定人数を常在するボランティア活動は無理であるとする。
(4) へき地診療助成として坂本広猪先生からの申請に対し十万円助成することを決定する。
(5) 日本病院ボランティア協会より支援の依頼について
賛助団体として九千円送金する。
(6) 国際女医会本部より問い合わせ役員推薦について一九八四年〜一九八六年の間、副会長候補として佐野アヤ子氏を推薦する。
(7) 岡山総会出席のため新幹線乗車手配について
昭和58年5月28日、東京発6時12分(ひかり)に乗車希望を受く。
(8) 東京都支部連合会について
東京都各支部長と役員準備委員とにより東京都支部連合会を4月17日に開催する。
(9) 日本女医会会員に関して

イ、当会加入お誘いの呼びかけをどのようにするか次回検討する。

ロ、日本女医学会誌へ退会者名を掲載しない。

(10) 会計支出に関して

イ、支部長欠員支部へは、支部助成費の支払いが出来ないため雑収入として処理をする。年度内になるべく支部長の選出を願う。

ロ、理事会、部会、その他会合のため以外の旅費は、支出しない。

以上 久保田くら 野沢 良美

日時 昭和58年4月23日  
場所 日本女医学会 会議室  
出席(敬称略)

三神、小俣、福永、山崎、稲葉、久保田、佐藤、佐野、白橋、野沢、橋本、平瀬、丸山、森川、八木、柳瀬、明石、石川、石原、川口、蓮井、町田、三好、山本、添田、西山、山口

欠席(敬称略)

荒木、井上、鶴川、川島、鈴木、関口、野呂、藤井、藤田、マッキンストリ、森

庶務報告

野沢常任理事

3月26日 事業部会、年金委員会の合同会議および理事会を行なう。

4月3日 福岡支部会へ山崎副会長出席。

4月7日 ムハラク大統領(エジプト)夫人と婦人団体との懇談会に佐野常任理事出席。

4月11日 労働省主催婦人問題懇談会に柳瀬常任理事出席。

4月12日 広報部会を行なう。

4月17日 東京都支部連合会準備委員会を行なう。

4月19日 昭和57年度会計監査を行なう。

4月21日 渉外部会を行なう。

その他  
(1) 日本有職婦人クラブ全国連合会より会長、事務局長の退任および就任の挨拶あり。

(2) 学術研究助成受賞者石井伸子会員より礼状あり。

(3) 大月書店より「平塚らいてふ著作集」刊行にあたり当会の推薦の依頼あり承諾する(4月18日メ切のため)。

連絡事項

(1) 昭和58年度婦人教育国際交流事業実施の案内あり。

議題

一、定時総会について

(1) 会務報告、事業報告、昭和57年度決算および昭和58年度予算について

配布済みの資料にもとずき検討する。

(2) 評議員会、総会の議題について  
昭和57年度一般会計収支決算  
剰余金処分案

昭和58年度事業計画案  
昭和58年度一般会計収支予算案

次々期総会開催地について  
(3) 評議員会、総会の次第について  
配布済みの資料にもとずき司会者及び報告者を決定する。

二、昭和60年総会開催地について  
役員選挙が予定されるので東京で開催と決定する。

三、会員について  
会員数を増加するために、入会のお誘いを心がける。

日本女医学会誌紙上を有効に活用する(新加入者の住所、出身校等掲載し自然退会者名は発表しないようにする)。

四、その他  
(1) 日本文化協会光のプレゼント運動委員会より協賛依頼あり  
一万円協力

(2) 支部助成金支払いについて  
支部長欠員支部に支部長の選出を願う支部長に支部助成金を支払う。

(3) 昭和58年度役員会開催日予定について  
別紙のとおり開催日を決定する。

(4) 東京都支部連合会について  
去る4月17日東京都支部連合会準備委員会を開催の報告あり

(5) 昭和59年総会について  
日時 昭和59年5月26日(土)  
場所 神奈川県民ホール  
(神奈川県知事宛に借用許可願提出)

宿泊 ニューグランドホテル  
観光 横浜市内、江の島、鎌

倉、箱根方面

(6) 職員昇給について  
7%増

(7) 国際女医学会関係

(a) オランダのベルフアーゲン元国際女医学会副会長とオランダ国際連絡書記アレン女史が5月2日來日予定である。

(b) 国際女医学会会長の推薦は、山崎国際連絡書記に一任する。

以上 久保田くら 野沢 良美



集記

今回は岡山の総会が主な行事でした。岡山の先生方は皆様たいへん熱心に総会を盛り上げて下さってまことに楽しい総会でした。ご参加の諸先生はまた来年の総会も出席をとお考えの方が多かったと思います。地元の先生がたに厚く感謝する気持ちです。

時に諸先生「日本医師会雑誌」六月一日号の「女性医師の将来」をお読みになったでしょうか。日本の女医の男医との比率はだんだん高くなっており、男医の将来はたいへん増加しますが、女医はもっと増加しそうです。米国および欧州各国ではも

会員動静

新評議員(敬称略)

福島支部 菊池寿子  
中野支部 倉島撰子  
大阪八支部 井筒初子  
入会会員(敬称略)

山梨支部 小宮山和枝(川上)  
順天大 昭51年卒

物故者会員(敬称略)

栃木支部 佐藤菊子  
神奈川支部 阿部十七  
広島支部 中本カツコ  
島根支部 服部世津子

つと女医の比率は高いようで、日本女医学会の将来の必要性が感じられます。東京も活動を活発にするようすすめていますが、各地方がその地域に適した方法で活動を伸ばしていただき本部へ報告していただけたら何よりと存じます。(川口)

昭和58年7月20日 印刷  
昭和58年7月25日 発行  
編集人 八木貞子  
発行人 日本女医学会  
発行所 東京都渋谷区渋谷2-1-8 青山宮野ビル  
社団法人 日本女医学会  
TEL(498)〇五七一  
制作 東京都文京区水道1-5-16 株式会社 金剛出版